



研究者名※	野辺陽子	学位※	博士(社会学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	准教授
連絡先	nobey@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/yoko_nobe		
研究分野※	社会学		
研究キーワード※	家族社会学、福祉社会学、親子関係、ケア		
共同研究・競争的資金等の研究課題	社会的養護の比較歴史社会学的研究——日韓比較を通じた分析枠組みと指標の構築(科学研究費・基盤C・研究代表者、2020 - 2023年)		
社会貢献・産学官連携活動等	・養子と里親を考える会 理事 ・特別養子縁組家庭支援団体「Origin」理事		
受賞歴	福祉社会学会 第5回 学術賞(2019年) 日本社会学会 第18回 奨励賞(著書の部)(2019年) 日本家族社会学会 第2回 奨励著書賞(2021年)		

研究領域	家族・親族、自我・アイデンティティ	(SDGs)
研究テーマ※	社会的養護の比較歴史社会学的研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 社会的養護は主に「施設／里親」という枠組みと里親委託率という指標を用いて研究が行われてきた。しかし、これらの枠組み・指標は、社会的養護の現状や今後の方向性を構想するうえで充分かつ適切な枠組み・指標とはいえない。2010年代以降、日本で社会的養護の脱施設化の動きが加速しており、里親委託が政策的に推進されている。今後の政策をミスリードしないためにも、社会的養護を分析する新しい枠組みと指標が求められる。そこで、本研究は日韓の社会的養護を比較歴史社会学の視点から分析することで、新しい分析枠組みと指標を提案し、現在日本が陥っている隘路を指摘することを目的とする。</p> <p>【応用例、研究の展望】 社会的養護の実態を従来の「施設／里親」という枠組みや里親委託率という指標で単純化して把握するのではなく、社会的養護内部の複雑さを捉えることができる。例えば、第一に、施設には大舎制から、小規模化して地域のなかにあるグループホームまで多様な種類がある。一方、里親にも親族里親や養子縁組を前提とした里親など、多様な種類がある。施設・里親それぞれの多様さを捉える。第二に、社会的養護体制がつけられてきたプロセスや、隣接領域(家族法、人口政策など)との関係、児童福祉の予算の配分などの背景についても枠組みに含める。第三に、脱施設化し、社会的養護が里親中心へと転換した後の実態、すなわち当事者(里子・里親・実親)を含む関係者にどんな課題が生じているかも枠組みや指標に含める。これらによって、より実態の複雑さに即した現状分析を行うことができる。</p> <p>【研究方法の特色】 ・日本・韓国の社会的養護に関する量的な差異だけでなく、質的な差異に注目している ・日本・韓国ともに一次資料(政府資料、国会会議録など)を幅広く収集し分析している ・日本・韓国ともに社会的養護の当事者・支援者へのインタビューを予定している</p>	
本研究関連特許・論文等	野辺陽子『養子縁組の社会学——〈日本人〉にとって〈血縁〉とはなにか』新曜社、2018年2月	
共同研究・外部機関との連携への期待	社会的養護の国際比較についての共同研究	